

金澤鞆製

TEL.03-3891-5964 FAX.03-3806-5880



金澤 守利
代表取締役

代表者: 代表取締役 金澤 守利
所在地: 〒116-0013 荒川区西日暮里1-7-3
資本金: 一
従業員: 2人

創業年: 昭和25年
業種: 身の回り品(かばん)卸売業
事業内容: かばんの企画・開発・販売、
繊維・化学・皮革製かばん類の
販売・事業サービス

主業務は企画・開発とコーディネータ業

本業は、社歴60年を超えるかばん専門メーカー。昭和時代には自社内に縫製工場を持ち、製販一貫体制を築いていたが、業界全体が新興国からの低価格品と欧州からの有名ブランド品に押されてシェアを下げるといった状況の中で、ファブレス企業に業態を転換した。消費者の趣向が多様化する時代を直視して、かばん製品の企画・開発に特化して、「個性的でオリジナルな製品を提供する」戦略に変えるとともに、新たな事業展開を指向する企業などとの営業情報の交換から資材調達、製品づくりまでを融通し合い、連携し、協働化する事業展開に重点を移した。

ニッチ分野の製品づくりの活路を開く

同社の製品扱いは、かばんの素材として最も普及しているナイロン系と皮革系が主体。大半が顧客指定のオリジナル製品で、材質、機能、デザインが勝負となるが、蓄積されたデータを駆使して型紙を起こし、サンプルを迅速に提示して、専用ラインを持つ協力工場に外注して製作し、短納期で届ける。

これまでに、女子高の学用かばん、美容学校生用の化粧ケース、海洋スポーツ用のバッグ、医療用バッグなどユニークな製品を手がけ、ニッチ分野の製品づくりで独自の技術を開発し、顧客を開拓している。

一方、かばん産業に長年かかわっている存在感は大きく、多くの取引先との関係を大切に、情報交流を密にして多様な顧客ニーズにチャレンジし、新たな製品づくりや事業提携を模索。業界団体のリーダーとしてかばん製作に関するプロジェクトや地域の枠を超えたさまざまな連携事業の推進役を果たしているのが特徴でもある。

地域の枠を超えた産学官の連携を推進

縫製職人でもある金澤守利氏は、文化服装学院や東京モード学院服飾学科などでかばん製造の技術指導を行うなど、荒川区内の産業、教育と関わりも深い。MACC プロジェクトに参画してからは、首都大学東京健康福祉学部と共同で

障がい児の介護用スリングを実用化。その他、植草学園大学(千葉県)との災害時の要介護者用移動具の開発も行った。

荒川区内にとどまらず、首都圏を中心にした企業と企業、企業と消費者、産・学・官の連携、そしてかばん製作に関わる職人の技能向上、後継者育成に取り組む考えだ。



介護用スリング

かばん業界をけん引する ファブレス企業



鞆(かばん)のファブレス(製造は外部の協力会社に任せ、企画・開発・販売を主業務とする)企業である。個人経営会社だが、代表取締役の金澤守利氏は、東日本鞆工業組合の協会の理事長、一般社団法人東京鞆協会の副理事長を務め、その幅広いネットワークを活かした事業展開が持ち味。企業間連携や産学官連携を広め、最近では、日本鞆ハンドバック協会が実施している資格制度「鞆・ハンドバック・小物技術認定(皮革部門)制度」の普及にも取り組み、革製品の人材育成に取り組むなど、業界のコーディネータ役を果たし、協働化によるかばん産業の振興に力を注ぐ。